

報道関係 各位

2021年5月16日

株式会社日本レースプロモーション

2021年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 決勝速報

ジュリアーノ・アレジが、荒天のレースを制し初優勝！！

国内レースの最高峰、2021年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦オートポリス大会の決勝レースが、大分県オートポリスサーキットで行われ、ジュリアーノ・アレジ(クオバンテリンチーム トムス)が荒天に見舞われた波乱のレースを制した。

決勝当日のサーキットは、朝から濃い霧に包まれ、時折大粒の雨が落ち、雨が止むと強風が吹くという目まぐるしく変化する荒天に見舞われ、午前中に予定されていた他カテゴリーのレースがキャンセル、スーパーフォーミュラのフリー走行2回目もキャンセルされるなど、決勝レースが行われるかどうか心配される状況となった。

スタート進行が始まる前13時30分、午前中のフリー走行キャンセルの代替えとして20分間のウォーミングアップ走行開始が予定されていたが、開始直前から雨脚が激しくなり開始時刻がダイレイ。当初予定より30分遅れの14時55分にフォーメーションラップが開始された。

そしていよいよレースがスタート。ポールポジションからスタートしたジュリアーノ・アレジ(クオバンテリンチーム トムス)は見事にスタートを決め1コーナーに入ったが、後方の平川 亮(カーエネクス チーム インパル)と坪井 翔(ピーエムユーセルモインギング)が接触しスピン。国本 雄資(ケーシーエムジー)も巻き込まれこの3台が早々にリタイヤを喫した。また2番グリッドスタートの宮田 莉朋(クオバンテリンチーム トムス)は1コーナーでコースアウトし後方に沈んでしまう。一方、13番手からスタートした松下 信治(ビーマックスレーシングチーム)は、スタート直後1コーナーで起きたアクシデントをかわし2番手に浮上した。

その後も、各所で激しいバトルが展開され順位が目まぐるしく変わる中、11周時点で猛烈な雨が降り始めセーフティカーが導入、そのまま赤旗中断となった。

約1時間の中断後、天候の回復が見込めないことからそのままレースは終了。ジュリアーノ・アレジが見事優勝を果たすこととなった。2位には松下 信治、3位にはポジションを死守した阪口 晴南(ピーエムユーセルモインギング)が入った。

しかし、暫定結果発表後、松下にスタート進行手順違反により5秒のペナルティが科された為、順位が変わり、2位は阪口、3位は松下となった。

なお、本レースで与えられる得点は、走行距離がレース距離の75%未満で終了した為、選手権得点の半分が加算される。

次戦、第4戦は6月19日(土)・20日(日)宮城県スポーツランド SUGO で開催される。

*記録の詳細は、オフィシャルサイトでご確認ください。

*ポイントランキングは、オフィシャルサイトに掲載いたしますので、そちらをご参照ください。



荒天のレースを制し初優勝を飾ったジュリアーノ・アレジ